

## 三浦梅園の一書簡

白井淳三郎

年の瀬も押し迫った師走の一日、安岐町の梅園研究会から、最近発見された梅園の一書簡のコピーが送られてきた。取りあえず、原文を紹介し解説をこころみる。誤読、誤解にお気付きの読者があれば、是非、御叱正を乞う次第である。先ず原文をあげる。

久断鴻鯉日以耿々。忽有賜書。為僕貽義海翼之詩。開絨讀之。何文采之巨麗。如嶽蓮開霽色。馭樹散秋声。足以擊節矣。況其余美而備哉。郷也僕以弇州詩中之所疑。質之足下。足下幸不惜高誼。於是乎。群疑冰解。朋友之情。亦不為不深。夫惟自与足下載酒郭西諸蘭若青眼酣歌。心未嘗一日不在江湖之上。雖衡門之下可以栖遲。孰与足下之与二三兄弟。放遊習家池上。

十一月 日

浦安貞

賀子登詞伯

読み下し文をこころみる。

久シク鴻鯉ヲ断チ日ニ以ツテ耿々タリ。

忽チ書ヲ賜ウ有リ。僕ノ為ニ義海翼之々詩ヲ貽ル。絨ヲ開キ之ヲ読ムニ。何ゾ文采ノ巨麗ナル。嶽蓮ノ霽色ヲ開キ馭樹ノ秋声

ニ散ズルガ如ク。以ツテ節ヲ撃ツニ足ル。況ンヤ其ノ余ノ美ニシテ、備ハレルヲヤ。郷ニ又僕弇州ノ詩中ノ疑ハシキ所ヲ以ツテ、コレヲ足下ニ質ス。足下幸イニ高誼ヲ惜シマズ。ココニオイテカ、群疑冰解ス。

朋友ノ情モ亦深カラズトナサズ。ソレ惟ダ足下ト、酒郭西ノ諸蘭若ノ青眼相酌ノ歌ヲ載セシヨリ、心イマダ嘗ツテ一日モ江湖ノ上ニアラズンバアラズ。衡門ノ下以ツテ栖遲スベシトイエドモ、足下ノ二三ノ兄弟ト習家ノ池上ニ教遊スルニ執ゾ。

十一月 日

浦安貞

### 賀子登詞伯

つづいて、現代文に意識してみよう。

長らくお便りがないので、日々不安に思っていた。そこへ突然お便りが届いた。しかも私のために、義海の翼之々の詩が同封され、ひらいてこれを読むと、言葉づかいの美しいことは、富士山が晴れて姿をあらわしたように見事で、又駅樹が秋になり紅葉して散るように、節をつけ唱詠するに足る立派な詩である。それ以上、美しく秀作の条件をそなへていることは、申し分ない。

以前、明の王世貞の詩について、私の疑問とする所を君に質問したところ、君は友情を惜しまず親切に御教示下され、私の疑問は氷解した。格の如くに君と僕との友情は深くはないわけではない。唯、君と酒を飲んで田舎の寺で親しく相酌の歌をつくってから、私の心は一日も江湖の上（隠士の住む所）に安んじたことはない。私は粗末なわび住いで、気まくな生活を送っているが、君は二、三の兄弟と共に親しい家の池の上で、贅をつくした教遊をしておられるが、どちらがよいであろうか。

十一月 日

三浦安貞

### 賀来子登詩の先輩殿

安岐町長中尾三郎氏の調査された所によると、この書簡は、寛保三年（一七四三）十一月、梅園が賀来子登にあてたものである。梅園時に二十一才、子登二十七才となる。

賀来子登は中津の人、諱は元竜、号は玉淵、通称は吉右衛門といった。亭を彩雲と呼び、代々酒造を業としている。

藩の文学・藤田敬所に師事し、梅園の先輩に当る。梅園との親交は可成りのもので、寛延元年（一七四八）秋より、翌九

年九月二十日に至る一年間、互に贈答の漢詩は、子登百二十二首、梅園百四十五首、その後、子登は百五十三首、梅園は百七十六首に達し、これらは「二豊唱和録」と称され、『大分県史料』二十二卷にのせられている。本書簡は詩の贈答を始めた時より五年さかのぼった時点のものである。子登の著には「中津記」「豊前古城志」などがある。天明四年（一七八四）四月二十八日、享年六十九才で没し、その墓銘は彼の遺言により、梅園が撰したと伝える。

尚、書簡中の語句の註解を追記しておく。

鴻鯉コウリ 書信

耿々コウコウ 心の落ちつかないさま

文采||文彩 文章のあや

嶽蓮ガクレン 嶽のはす 富士山の異名

開霽カイサイ 雨や雪が止み晴れわたる

駅樹エキジュ 宿駅の樹木

撃節ゲキセツ 拍子をとる

弇州エンシウ 古の州の名 「詩轍」六〇〇頁に「弇州山人王世貞」とある。王世貞は明末の文人政治家、号は鳳州

又は弇州山人、古文辞派の代表的人物

高誼コウギ あついよしみ

群疑グンギ 多くの疑問

郭西カクセイ いなか（城外）

蘭若ランジャク 寺

青眼セイガン 親しい人に対する目つき

酩歌カンカ 酒に酔って歌う

江湖之上 隠士の住む処

衡門コウモン かやぶきの門、粗末な家

栖遲セイチ 官職につかず思いのままに過す

二三兄弟 同学の友人たち

敖遊ゴウユウ 遊びくらす

詞伯 詩文にすぐれた人、詩文の大家

以上が筆者の解説した所であるが、浅学の身、完全は期し難い。識者の御叱正は心から歓迎する所である。

梅園学会委員

# 増訂 豊後大友氏の研究

渡辺澄夫著 ■新版完成

謎の多い初代能直以来の大友氏の歴史に科学のメスを加えた初版に新たな増補した著者二十余年間の研究の結晶。  
△初版御購読の方は、誤植、誤脱がありましたので、無料でお取り替えます。当社までお申し出ください。V

A5・定価 三、八〇〇円

## 源平の雄 緒方三郎惟栄

渡辺澄夫著 彌嶽大明神の神裔と記された伝説的英雄惟栄を、歴史の世界に蘇生させた近來の名著。

B6・定価 一、五〇〇円

第一法規 九州支社

〒810 福岡市中央区大手門

3-5-4 電(092)74-6060